

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）【全日制】

学校番号	40	学校名	県立科学技術高等学校	校長名	小野 聡
------	----	-----	------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況（昨年度）	評価	成果と課題
ア 日常の学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒90%以上 ・「授業の内容がよく分かる」と回答する生徒90%以上 ・「教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めている」と答える保護者 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 83.7% (85.0%) ・ 79.0% (81.3%) ・ 75.4% (71.8%) 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標は下回ったが、学習に取り組む姿勢は育てることができている。 ・ 新学習指導要領および観点別評価の研究と実践を行うことで、生徒の主体性を引き出すことができ、生徒が理解しやすい授業を実施することができた。 ・ 今後は、それぞれの集団において活動リーダーを育成し、より自主的な授業展開を促していきたい。 ・ 保護者については「わからない」の回答が19.4%あるため、授業の様子について保護者に届くよう、学校ホームページや保護者会等での説明を充実させていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の授業、課外活動、家庭学習の合計学習時間が10時間となる生徒50%以上。 ・ 「学習と部活動等の課外活動の両立に努めている」と答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 42.9% (44.9%) ・ 64.7% (59.7%) 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年集会でクラス代表生徒にスピーチする場を提供し、2年生が学校の中心となり学習と部活動等を両立して頑張っていくという意識を全体で共有することができた。 ・ 進路決定後も学習習慣を維持することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教養力テストの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定通り年 12 回実施することができた。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習の定着につながっている。 ・ 採点業務改善に ICT を活用していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手帳や I C T 端末の活用等により、「生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができている」と答える生徒60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 25.0% (35.3%) 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生では、放課後の補講や個別指導のスケジュール管理に手帳を活用する生徒が多く見られた。 ・ 手帳を効果的に活用しているクラスもあるため、活用事例を校内全体で共有して行く。 ・ スケジュール管理の方法等を検討する。

様式第3号

個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来に対する夢や希望を持っている」と答える生徒80%以上 ・「信頼できる先生がいる」と答える生徒80%以上 ・「きめ細やかで適切な進路指導が成されている」と答える保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体 71.9% (71.2%) 1年 63.4% (55.6%) 2年 63.3% (66.9%) 3年 88.2% (87.3%) ・全体 81.1% (78.7%) 1年 80.5% (74.3%) 2年 75.4% (77.8%) 3年 86.5% (82.9%) ・全体 76.1% (79.3%) 1年 68.3% (71.5%) 2年 73.1% (74.7%) 3年 88.1% (89.0%) 	B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がっていくごとに数値も上がっているのので、今後も3年間を見通した指導体制を堅持していきたい。 ・各学年と教科、分掌等が足並みを揃えて連携し、3年間を通じて一貫した指導体制が良好に構築、継続できている。 ・進路指導における志望理由書や面接等の指導を全職員で行うことで、生徒一人一人に寄り添った指導を行うことができた。 ・補講の種類（理数科の朝・放課後・土曜補講、工業科の放課後・土曜補講）が多く、教員の業務負担が課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者70人以上 ・就職内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者 62人 ・就職内定率 100% 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の協力があり、生徒の進路実現に繋げることができた。
部活動を効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に参加している」生徒80%以上 ・「学校が楽しい」と答える生徒80%以上 ・「部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができた」と答える教員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・94.0% (76.7%) ・83.4% (85.5%) ・86.0% (84.3%) 	A A B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインを踏まえ、部活動と勉強の両立ができるよう工夫を凝らし、効率的・効果的な活動を行っていく。 ・コロナの影響により、中学時代に部活動に所属していなかった生徒が増えている。教員の負担等にも配慮が必要であり、部活動の在り方については、今後の課題である。 ・部活動を通して、他の生徒の模範となり学校を引っ張って行くリーダーを育成していきたい。
生徒主体の活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が企画した事業の実施年2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は生徒が主体的にかかわれるように企画されている。80.3% (83.8%) ・委員会や当番の仕事がきちりできている。91.7% (93.2%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり、生徒主体の体育祭や文化祭を行うことができた。 ・学校行事は、クラスの団結力や人間関係を構築する良い機会となり、学校全体の活性化にも繋がる。 ・各委員会の活動も、生徒が積極的に取り組むように計画的に行われた。

イ	<p>探究的な教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEAM 教育等の教科横断的な取組を実践する。(大学や企業等との連携) 	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究では「蒸気機関」や「スターリングエンジン」の研究など6テーマの発表を行った。 <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究では「屋外自動散水装置の研究」など13テーマの発表を行った。 <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究では「サボニウス型風力発電機の製作とその応用」など8テーマの発表を行った。 <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡大学から講師を招き、2年生に対して出張授業を実施した。 <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学等と連携し、講演会等の実施した。 <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を通して静岡市と提携した「まちづくり」イベントを3回、防災ワークショップを1回実施した。 ・社会との結びつきを意識した、現場見学会や体験会を各学年で実施した。 	A	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や学科研究部では、生徒主体で探究できるように支援を行った。 ・文化祭では、課題研究で製作した作品を展示したり、動画による紹介を行った。 <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作、研究など13のテーマを少人数で取り組み、探究的な活動を実施した。 <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や学科研究部の活動の中でテーマを持ち、探究的な活動を実施した。 ・外部でのイベントを意識したものづくりを行い、次世代の子供たちに、電気工学に興味を持ってもらえるような作品作りを行うことができた。 <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のITの方向性を講師に提示していただき、生徒の進路意識の向上が見られた。 <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公官庁や各種協会、企業と連携し、出前授業や現場見学会を実施した。対象学年や時期については、検討する必要がある。 <p>【都市基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数のイベントを開催するにあたり、大学生や他校の生徒、関係機関と連携し、充実した課題研究を実施することができた。 ・地元のこども園との交流活動や特別支援学校への製作物の寄贈なども実施した。今後も社会との結びつきを意識しながら、専門分野での役割を果たせる特色ある授業を展開していく。
---	-----------------------	---	---	---	--

			<p>【電子物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学見学（1年） ・静岡大学、静岡県立大学出前授業（2年） ・元ツムラ社員（静岡工業 0B）による授業（2、3年） ・理化学研究所訪問（2年修学旅行） ・課題研究テーマ（電子3テーマ、化学12テーマ） <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張授業等を適切に実施できた。 ・課題研究の活動を論文や学会報告など、外部で発表できた。 		<p>【電子物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学見学や出前授業等を通して、大学進学への意識を高めることができた。また、課題研究等へ向けた専門教科指導に繋げることができた。 ・温泉や化粧品等、身近なものを掘り下げることにより、幅広い知識が得られた。 ・電子系・化学系の両分野へ興味・関心を持たせるよう、実習テーマ等について検討していく。 <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究では、教科や学科を横断した取り組みが増えている。県内の大学や高校と連携して、探究活動をより深めていきたい。
<p>専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞 ・国家資格等の高度な資格に挑戦させ、受験者数及び合格者数の増加。 	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能検定(旋盤5名、機械検査11名、フライ盤1名)受験。 ・3級テクニカルイラストレーション CAD15名受験。 ・JIS 溶接技能者評価試験3名合格。 ・ものづくりマイスター、静岡県講師派遣事業の活用 <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県ロボット競技大予選敗退。 ・静岡県ものづくり競技大会（シーケンス、機械CAD） ・ロボットアイデア甲子園の全国大会出場。 	<p>A</p>	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり競技大会（旋盤）東海大会4位 ・学科研究部での活動を通して、ものづくりコンテストなどには1年次から参加することができるため、生徒達に様々な経験を積ませていきたい。 <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット大会は準備不足が否めなかった。1年時の初めから準備に取りかかりたい。 ・静岡県ものづくり競技大会は、シーケンス制御で東海大会、機械CADで全国大会に出場した。 ・ロボットアイデア甲子園全国大会に出場を果たしたが、本選に進出することは出来なかった。本来のプレゼン能力に磨きをかけさせたい。 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二種電気工事士28人合格 (28/33人、84.8%) ・ 技能検定(シーケンス制御) 【電気工学】 ＜高度な電気の資格取得＞ ・ 第三種電気主任技術者(電験三種) <li style="padding-left: 20px;">3年 全合格 1名 <li style="padding-left: 40px;">1科目合格 1名 <li style="padding-left: 20px;">2年 3科目合格 1名 <li style="padding-left: 40px;">1科目合格 2名 ・ 第一種電気工事士 <li style="padding-left: 20px;">筆記合格26名 (3年:10名、2年:16名) <li style="padding-left: 20px;">技能試験合格19名 (3年:8名、2年:11名) 【情報システム】 ・ 若年者ものづくり全国大会入賞 ・ IPA 主催各種大会への参加 【建築デザイン】 ・ 国家資格合格者36%。技能士は今後12名が挑戦する。 【都市基盤工学】 ・ ジュニアマイスター顕彰制度において、3年生全員がジュニアマイスター取得条件を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二種電気工事士(2年生中心)の合格率84.8%は、開校以来最高の成果を上げた。 ・ シーケンス制御の技能検定は12人が合格した。 【電気工学】 ・ 電験三種は、開校以来最高の合格実績であった。 ・ 夏休みには、Webを活用して電験三種の補講を行った。 ・ 第一種電気工事士合格者は昨年度より増加した。 ・ 資格試験の模擬試験を、従来のマークシート方式からクロームブック活用に変更したことにより、生徒の解答結果がリアルタイムで把握でき、その後の解説にも生かすことができ、生徒の正答率が向上した。 ・ 第一種電気工事士技能練習時間が、放課後遅くまでとなり、生徒が部活動に参加できず、また教員の勤務時間外での活動となっていることが課題。 【情報システム】 ・ 各種競技全国大会は難易度が上がり、入賞が難しくなっている。 ・ 国家資格受験については、CBT 受験が多くなり、受験者数の把握が難しくなっている。合格が今後の進路・人生に生きてくる可能性を理解させる必要がある。 【建築デザイン】 ・ 高度な資格の受験者は増加し、47名中17名が合格。 ・ 働き方改革を踏まえた指導(時間外活動の超過)が課題。 【都市基盤工学】 ・ ジュニアマイスターへの目標設定を高くしすぎたが、全員が1つ以上の国家資格を取得したことは大きな自信につながった。 ・ 生徒達は資格取得に意欲的であり、国家資格を3つ
--	--	--	---	---

			<p>ゴールド25% (10名) シルバー48% (19名) など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2級土木施工管理技術検定試験合格率 2年生：92% 3年生：95% ・ 2級造園施工管理技術検定試験合格率84% <p>【電子物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物取扱者甲種 1名 ・ 毒物劇物取扱者 1名 (合格率 50%) ・ 第二種電気工事士 (結果待ち) ・ 東海ものづくりコンテスト化学分析部門優勝 ・ 全国ものづくりコンテスト化学分析部門 3位 <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学グランプリ (10名)、地学オリンピック (6名)、科学の甲子園 (56名) 参加。 		<p>取得するなど、特別表彰につなげた生徒が2名いた。今後は1年次に情報関連の資格を目指し、ゴールド取得に向けた計画を立てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得試験時期が公務員試験と重なってしまうことがある。 <p>【電子物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物取扱者試験は、他学科の生徒たちにも試験日程の連絡をし、工業科の資格として興味を持たせることができた。 ・ 電子系の資格である第二種電気工事士について、筆記や実技の対策指導をすることができた。 ・ ものづくりコンテストでは、東海大会で優勝し、全国3位に入賞することができた。 ・ 各専門資格への興味関心を持たせ、資格に関連した知識・技能を身に付ける授業や実習の指導を行っていく。 ・ 資格やものづくりコンテストの指導者不足と対策時間の確保が課題。 <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学グランプリや科学の甲子園などに参加し、生徒の進路実現に役立てることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学科で技術者倫理に関する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラルや公害問題等、過去の事例及び未来への注意点等を、座学と実習を通して指導した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の技術が、世の中でどのように利用されているのか、学習した内容が世の中でどのように役に立っているのかを実感を持たせることにより、技術者としての責任や倫理観について指導を行っていく。 	

様式第3号

ウ	<p>グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一層充実した語学研修が実施できるよう検討する。 英語検定等の受験者数の増加（CEFR B1及びA2レベルの生徒数の増加） 羅東高校（台湾）と連携し、交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望者による語学研修を実施した。（8月、38人参加） 進学、就職を問わず全生徒に英検の取得の必要性を周知し、受験を促した。 羅東高校と5月にオンライン交流、12月に羅東高校生徒16名が来校し、交流活動を行った。 	<p>A A A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校を会場として語学研修プログラムを運営し、昨年度より参加者が増加した。 来年度は、海外研修を企画している。募集PRを工夫し、意欲の高い参加者を多く募りたい。 英検の受験者数は、昨年度とほぼ同じであった。（理数科3年生合格者：準2級33名、2級15名） 多くの生徒が自発的に交流活動に参加し、有意義な体験をすることができた。
	<p>持続可能な社会の一員としての素養を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶がしっかりとできている」と答える生徒95%以上 「身だしなみがしっかりとできている」と答える生徒95%以上 「スマートフォン・携帯電話は適切に利用している」と答える生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 96.1% (93.7%) 96.2% (94.2%) 75.9% (77.6%) 	<p>A A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、身だしなみともに高い数値を維持することができた。 頭髪服装検査は学年進行に合わせて回数を減らしていったが、風紀が乱れることなく全体として落ち着いた学校生活を送ることができた。 頭髪服装の指導については、概ね生徒はルールを守って生活できているが、今後、校則見直しに合わせて検討していく。 スマホについても、今年度はいじめにつながる大きなトラブルはなかった。今後は、1人1台端末の利用方法も含め、その都度適切な指導を行うことが必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上 図書館来館者数延べ8,000人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 一人当たり3.2冊 合計4,001冊 来館者延べ7,397人 	<p>A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 7月に「私の一冊」を発行し、その中で紹介された本を展示して生徒の読書活動を促した。 6月と11月には「読書キャンペーン」を行い、生徒の図書館利用の促進を図った。その後、頻繁に図書館に来る生徒が増えた。 12月には雑誌配布を行った。その他にも定期的に「図書館NEWS」や「新着図書紹介」を発行したり、進路課と協力して「小論文にお勧めの本」を増やし、小論文コーナーを充実させたりした。このような活動を通して、図書館に来て本を借りていく生徒が増えていると感じている。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ 98.0% (98.0%) (参加生徒96名) ・保育体験 91.6% (95.0%) (参加生徒6名) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企業やこども園の協力を得て実施することができ、参加した生徒の進路に対する意識付けに効果があった。 ・こども園との交流活動において、学科の特性等も活かしながら園児たちと遊びの体験ができた。生徒たちは、園の先生方の指導を注視し、有意義な実習となった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・資源の大切さを意識させるとともに、「3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいる」と答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・54.6% (60.6%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や課題研究では、資源の大切さや安全教育、3S活動を推進し、大きな怪我はなかった。 ・保健日より（保健委員会）で、3Sの特集ページを作成した。 ・3S活動については、日頃からの意識づけ、呼びかけを様々な場面で行っていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「交通ルールの遵守に心掛けている」と答える生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体93.0% (93.8%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは概ね交通ルールを守って登下校しているが、出会い頭の交通事故やトラブル等が発生している。 ・事故後の対応も含め、交通安全に関する継続的な指導を繰り返し行っていく。
エ	カリキュラム・マネジメントを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程の編成 ・令和6年度から学校運営協議会制度を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に対応いた授業展開を開始した。 ・令和6年度に、導入する方向で検討している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領および観点別評価の研究と実践を行うことで、生徒の主体性を引き出し、生徒が理解しやすい授業を実施することができた。 ・令和6年度、導入に向けた準備を進めて行く。
	特別支援教育体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談だより」を、月1回以上発行 ・1年生全員を対象としたカウンセリングを実施 ・個別の指導計画及び支援計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談だより」を生徒向けに月1回、教員向けに年2回発行した。 ・1年生全員を対象にしたカウンセリングを実施した。 ・相談室をほぼ毎日開室することができた。 ・個別の指導計画及び支援計画の更新を担当や保護者とともに行うことができた。 	A	
				A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の紹介や長期休暇前には外部相談先の紹介など、役に立つ内容を生徒と保護者へ配信した。より親しみやすい内容を目指していく。 ・1年生全員へのカウンセリングは、入学後の不安などを担任や顧問などと情報共有することができ、その後の指導につながった。 ・年間を通して、特別な支援を必要とする生徒の周知ができた。更に、多くの先生方に特別支援への理解が深まるように情報共有に努めていきたい。

様式第3号

<p>教職員の資質・能力の向上を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた」と答える教員90%以上 ・授業参観した教員70%以上 ・授業力自己診断を実施した教員90%以上 ・多様な測定ツールを用いてP D C Aサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90% ・「観点別評価を適切に実施している」と答える教員70%以上 ・「日常的に授業でI C T機器を活用した」と答える教員60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 97.6 (91.3%) ・ 77.8 (67.1%) ・ 86.4 (78.6%) ・ 95.1 (92.8%) ・ 87.7 (75.7%) ・ 69.2 (60.0%) 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員が、昨年より増加し、目標を達成できた。 ・授業参観を積極的に呼びかけ、授業参観をもとにした教科別研修会を奨励することで、授業参観した教員など、他の項目も昨年より増加した。 ・県総合教育センター主催の研修会や各教科の教育研究会等に積極的に参加し、実践例や他校の状況などを知ることができ、とても参考になった。 ・評価規準作成について、情報提供を学科長・教科主任を通して行うことができた。 ・本年度、ICT機器の活用に関する研修を積極的に実施したことで、活用する教員の増加につながったと思われる。
<p>教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修を随時実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委からの通知（コンプライアンス通信等）にあわせて随時実施した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のメンタルヘルス及びコンプライアンスの徹底について、随時、声掛けや研修を行った。 ・8月と1月には、グループワークを交えた研修を実施し、不祥事根絶に向けた職場づくりについて意見を出し合った。
<p>学校教育活動に関する広報を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを月15回以上更新 ・ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の出来事（ブログ）」更新回数 284回（352回）月平均 28.4回（35.2回）（R5年4月～R6年1月） ・「校長ブログ」更新回数 20回以上/日 【全学科】 ・実学チャレンジフェスタへの参加。 	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを日々更新し、多岐にわたる話題の情報発信が出来た。今後は見やすく探しやすいホームページを目指して、情報管理課とも連携し、全体のデザイン変更も視野に入れたい。 ・ホームページ閲覧者数カウンター 昨年2月300万回 本年1月400万回 ※約11ヵ月で100万回 ・学校行事等の情報をマスコミへとリリースし、様々な記事が掲載された。 【全学科】 ・中学生数の減少が著しく、PRの重要性が増している。 ・一日体験入学では、生徒主体の学科説明や発表を行

		<p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生ロボット教室の開催（参加者10名） <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡市番町市民活動センターにて課題研究の成果発表を行った。 <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象とした科学教室を8月、9月、11月に計画し、3回実施した。 		<p>い、各学科の特色等を知っていただくことができました。</p> <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット教室に参加した中学生が、体験入学やオープンスクールにも参加してくれた。 <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学チャレンジフェスタでは、課題研究で製作した作品を持参し、生徒自らが来場者に対して説明を行い、電気工学の面白さを伝えるだけでなく、学校の広報活動を行うことができた。 <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校の生徒や地域の方、静岡を支える企業やNPO法人など、防災に関心を寄せる方30名が参加して、これまで課題研究で取り組んだことを発表できた。 <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学教室への中学生の参加者は、66名（定員60名）。
校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が校務で共有サーバを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務で利用するネットワーク機器は正常に運用できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ的に懸念されていたNASの運用を改善した。 ・利便性とセキュリティ確保の観点から、バランスの取れた運用方法を行い、障害発生時には迅速に復旧できる体制を整えて行く。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善を心掛けた」と答える教員60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・93.8%（94.3%） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Cラーニングを導入し、欠席連絡や保護者への連絡等を効率良く行うことができるようになった。 ・試験導入したデジタル採点ソフト「百問繚乱」は、採点時間が短縮できとても好評であった。 ・「スクラップ&ビルド」により、業務の効率化、多忙化解消及び教育の質の向上を図り、ICTの効果的な活用についても検討していく。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の点検の日を設けPFI担当者との点検を月1回以上実施 ・施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を高め、消費電力量を削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回以上の点検を行い、危険箇所や不良個所の情報共有及び改修することができた。 ・夏季（6～9月）の使用電力量が前年度比で2%削減したが、目標である前年度比10%には及ばなかった。 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点検及び小規模な改修は速やかに対応できた。今後もPFI事業者と連携を密にして、危険箇所の解消に努めていく。 ・猛暑により、夏季の空調の節電は厳しい状況。こまめな電源OFF等、効率的な使用を引き続き呼びかけていく必要がある。
--	--	--	---	-------------------	---